

# 新技術を 使いやすくするために

## ～防災・技術センターがサポートする「特定現場型技術支援」について～

防災・技術センターは、現場技術職員の負担を軽減させ、新技術の活用の一層の促進を図るため、様々な支援を行っています。これらの支援施策を現場で活用していただくことは、技術を育ててゆく環境形成と良い技術をより広く活用する“新技術活用の正のスパイラル”の形成に寄与すると考えています。

### 「特定現場型技術支援」の取組み

北海道開発局では平成15年度より「公共工事における技術活用システム」を運用開始し、平成17年度からは当システムの再編強化を行い有用な新技術の公共工事への活用・普及を図っています。

具体的には「新技術情報提供システム(NETIS)」から新技術を検索・選定し工事に適用していきませんが、現場技術職員は従来業務の繁忙に加えNETISからの情報検索のしにくさが新技術の活用・普及の妨げとなっています。

このため、防災・技術センター技術課技術調査係では、現場事務所から「新技術工法の選定」の依頼を受け、NETIS等を活用し現場技術職員への技術支援を行うと共に、新技術の更なる活用・普及に務めております。

### 「特定現場型技術支援」とは？

「特定現場型技術支援」の内容は、「新技術工法の選定支援」「施工管理基準等の作成支援」「積算資料の作成支援」の3つになっています。

表2 「特定現場型技術支援」の内容

年度	開建名	支援要請事務所	支援技術内容	河川	道路	支援内容		
						選定	特記(基準)	積算
H16	札幌	札幌道路事務所	既設橋梁撤去工法について		●	■		■
	石狩川	札幌河川事務所	浸食防止対策工法について	●		■		
	室蘭	苫小牧道路事務所	道路の厚層舗装工法について		●	■		
	室蘭	苫小牧道路事務所	ボックスカルバートのクラック補修について		●	■		
H17	旭川	旭川河川事務所	堤防天端部の舗装について	●		■		
	帯広	足寄道路事務所	情報管路工によるハンドホール工法について		●	■		
	網走	遠軽道路事務所	舗装工事による中温化舗装工法について		●	■		
	札幌	滝川道路事務所	舗装修繕工法について		●	■	■	■
	稚内	稚内開発事務所	伐根物による盛土法面の緑化工法について		●	■		
	帯広	広尾道路事務所	伐採材、伐根物、草混じり表層土による法面緑化工法について		●	■		

表1 「特定現場型技術支援」の内容

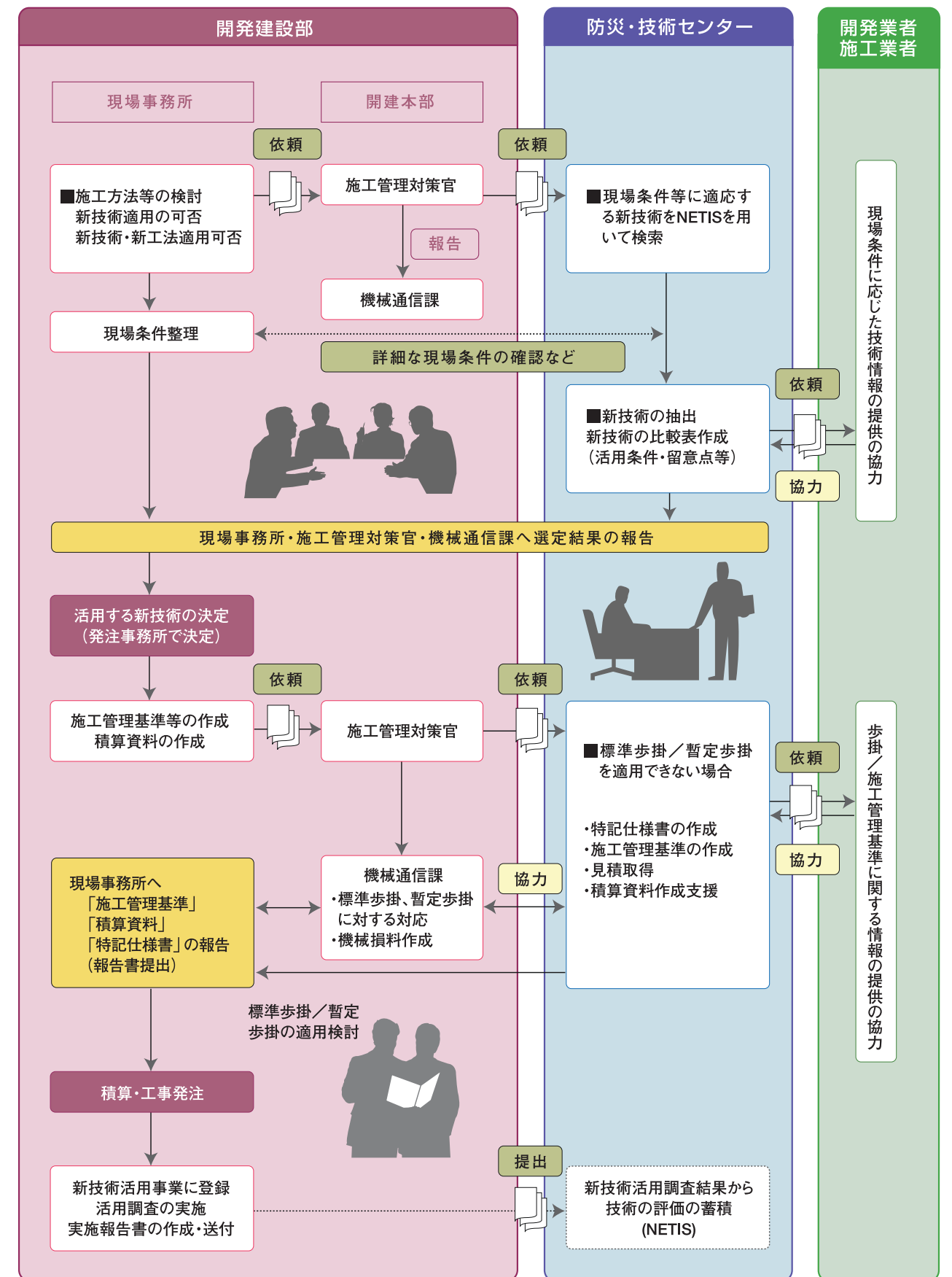
I. 新技術工法の選定支援	NETISから該当技術(3~7技術)を抽出し、技術内容の詳細について開発者へヒアリングを行う。この結果に基づき、現場適合性、従来技術との比較等を行い事務所等に提案・報告を行う。
II. 施工管理基準等の作成支援	事務所等で特定された新技術について、関係団体や施工経験のある業者等の調査を行い、特記仕様書・施工管理基準の作成を行う。
III. 積算資料の作成支援	事務所等で特定された新技術について、関係団体や施工経験のある業者等の調査を行い、積算資料の作成を行う。

### 「特定現場型技術支援」はスタートしたばかり!

防災・技術センターでは、平成16年度と平成17年度の2か年で、道路が8件、河川が2件の合計10件の特定現場型技術支援を行いました。

## 新技術を使いやすくするために

図1 特定現場型技術支援の流れ





## 現場条件に応じた詳細情報をNETIS情報に加えて提供

「特定現場型技術支援」では、NETIS(新技術情報提供システム)に掲載されている新技術に関する情報に加えて、開発業者の方々のご協力を得て、現場条件に応じた詳細な情報をヒアリング結果としてまとめ、設計担当者のお手元へお届けしています。

また、開発業者の皆様から提供いただいた詳細な技術資料、積算資料も合わせて提供しています。

## 工法の選定のみの支援も可能です!

「特定現場型技術支援の流れ」では、新技術の工法選定から発注の際の積算支援まで一連の流れを示していますが、「工法選定だけ依頼したい」などの要請も受け付けております。新技術活用でお困りの際は、防災・技術センター(技術調査係)までお問い合わせください。

- ①支援の範囲は、「NETIS登録技術」からの選定とします。
- ②新技術選定などの際は、開発業者の皆様へヒアリングを行いますので、時間の余裕を持って依頼して下さい。(選定技術の工種によって前後しますが、新技術選定支援は2~3ヶ月、施工管理基準・積算資料支援は1~2ヶ月程度を目安に下さい。)

■選定技術の概要と選定結果表の事例(赤字は開発業者からのヒアリング結果)

選定技術	概要	選定結果
1. 自己復元緑化工法	「特定現場型技術支援」では、NETIS(新技術情報提供システム)に掲載されている新技術に関する情報に加えて、開発業者の方々のご協力を得て、現場条件に応じた詳細な情報をヒアリング結果としてまとめ、設計担当者のお手元へお届けしています。	○
2. Riv&Seaパネル工法	鋼構造物(鋼矢板・鋼管矢板)の防食および修景工法	○

NETISの登録情報だけでは判断できない個々の現場条件についての適用性をヒアリング結果として提供します。

### 【ヒアリング項目の事例】

- ・必要な施工ヤードの広さ
- ・専用機器のリースの可否
- ・厳冬の期の施工の可否
- ・交通開放までの時間
- ・北海道単価での施工費
- ・アルカリ性土壌への適用可否
- ・凍上に対する耐久性
- ・積雪寒冷地での施工時の留意点
- ...etc

## 新技術の開発業者・施工業者の皆様へ

「特定現場型技術支援」を行う場合、最も重要なことは、開発業者の方々から申請されたNETIS情報のほかに、それぞれの現場の現場条件、自然条件などに応じた活用の際の方法や留意すべき事項を把握することだと考えています。これらは、開発業者の皆様のご協力が不可欠となります。

今後とも、良い技術をより多くの現場に活用し、安全、安心で

環境保全にも配慮した持続可能な公共事業の推進するために、「特定現場型技術支援」にご協力をいただけるようお願い申し上げます。

### ■お問い合わせ先

防災・技術センター 技術調査係  
NTT 011-851-4273 多重 8-612-341/342



すすめ! テクノロジー

# NETIS登録技術9の枝

国土交通省では、新技術に関する情報収集や発注者間での共有、試行導入手続き、導入効果の検証・評価まで体系的に取り組んでいます。この中核となるのが、開発者と発注者のインターフェースと呼ばれている、「新技術情報提供システム(NETIS:New Technology Information System)」です。いわゆる新技術に関する情報収集・共有を図る手段として整備されたデータベースシステムです。ここでは、北海道開発局で平成16年度に登録された「新技術」のうち、9件を紹介いたします。

※申請タイプは、評価試行方式への移行に伴い、現在更新手続き中です。  
※ここで紹介する技術の概要は、NETISに登録されている内容から抜粋したものです。詳細については、NETIS検索ページをご覧ください。  
【<http://www.kangi.ktr.mlit.go.jp/RenewNetis/Index.asp>】

## NETIS No.HK-040013

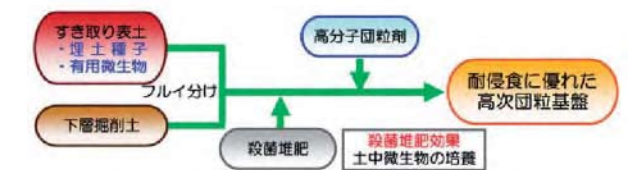
### 生態系・自然環境を保全するため、種子や微生物を他から持ち込まない自然復元緑化工法 自己復元緑化工法

種子および土中微生物を外部から一切持ち込まない生態保全型の自然回復緑化工法です。種子は現地発生するすき取り表土中の埋土種子を活用します。また、表土中の有用微生物を特殊培養し増殖させ生育基盤材として活用します。生育基盤は耐浸食性に優れた高次団粒基盤からなり、基盤の長期安定化により、自生種の飛来種子および落下種子を活着させることが可能となります。

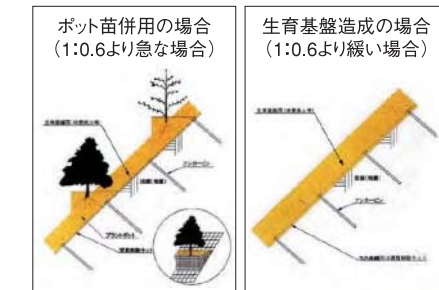
### ■問い合わせ先

(営業) 自己復元緑化工法協会 TEL.03-3296-8588  
(技術) 北海道三祐株式会社(協会員) TEL.011-773-5121  
(申請タイプ:A)

### ■作業フロー



### ■施工略図



### ■植生状況



## NETIS No.HK-040014

### 鋼構造物(鋼矢板・鋼管矢板)の防食および修景工法 Riv&Seaパネル工法

鋼矢板・鋼管矢板護岸などの鋼構造物は、防食や景観上の理由で鋼製大型型枠を使用した現場打ちコンクリートによるものでした。しかし、施工方法が煩雑で工期が長く、施工状況によってはコンクリートが緻密に充填されず、ジャンカの発生に伴い腐食が進行する問題点がありました。本工法は、工場製作によるプレキャストコンクリートパネルを使用し、施工方法を簡略化することで、施工性の向上、工期短縮を可能にしました。パネルに埋設したトラス筋により、間詰コンクリートとの付着性を持たせ、鋼構造物と一体化することができます。

### ■問い合わせ先

(営業・技術) Riv&Seaパネル工法研究会 TEL.03-3943-4644  
(申請タイプ:従来)

### ■施工状況



■パネル設置状況

■パネル外観(裏面)